ラマレラリポート / Tomita　　10/06/15

◆初めてのラマレラ村へ

毎年恒例としているイカットを訪ねる旅、今年は東ヌサ・トゥンガラ州のフローレス島とルンバタ島に行きました。　ルンバタ島南岸のラマレラ村では、手作り、手漕ぎの小さな木造船（プレダン）で船団を組み、漁師自らクジラをめがけて、海に飛び込みながらモリで突くという昔ながらの方法で、大きなマッコウクジラの捕鯨が今も行われています。

昨年、フローレス島縦断の旅をしていた折りに、ガイドさん同士の情報交換で「ラマレラ村が良い、行くなら5月の初めが良い」といった話が耳に入りました。その時は何かセレモニーがあるらしい…としかわからず、いったい何があるのだろう？と、帰国後に調べてみたところ、毎年5月1日が海開けの日でクジラ漁が始まるとのこと、またその為のミサが行われるらしいということがわかりました。　フローレス島で知り合ったガイドさんは、アグスさん（Bapak Agustinus Bataona）といって、ラマレラ村出身の方だと知ったのは、しばらく後の事でした。そのアグスさんが里帰りも兼ねて、私達を案内してくれました。　4月27日、バリ島から飛行機でフローレス島のマウメレへ飛び、すぐに車で移動、島の東端であるララントゥカで1泊し、翌朝、船で（約4時間）ルンバタ島に渡り、一気にラマレラ村へと向かいました。港のあるルオレバからラマレラまで、トラックで約3時間半、車で行かれるようになったのは数年前からとのことです。

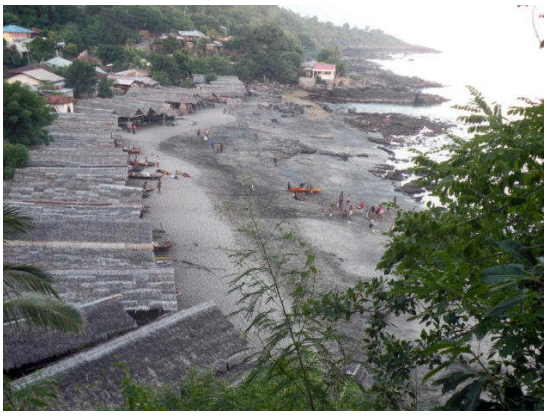
■フローレス・アドナラ・ルンバタ3島を結ぶ木造船

■ラマレラ村へ行く乗り合いバスであるトラック、とても愛いデコレーションです！

■部屋は暑いのですが、風が通って居心地の良い宿のテラス

◆アグスさんからは、村には宿は無いけれど自分の実家に泊まれば良いと聞いていたので、アグスさんの実家が宿であるとは思いもせず、なかなか快適な客室3部屋のホームステイだった事にびっくりしました。しかも、その宿はバタオネ先生のご実家の隣のちょっと奥の家でした。

村には宿が3軒あるそうですが、年に1度の儀式があることで、私達の他にも取材やら写真撮影やらで、ジャカルタから2～3名のインドネシア人、イギリス人1名、日本人男性2名がやって来ていて、3軒の宿は満杯でした。



■ラマレラ村の海岸

◆火山島であり、平地の少ないルンバタ島。ラマレラ村もまた海岸のすぐ近くまで山が迫っていて、浜は想像以上に狭いものでした。この村でマッコウクジラの漁をするのかと思うほど小さな海岸です。写真の左手に並んで見える屋根は漁船をしまう小屋です。その屋根の連なりの真ん中に小さな礼拝堂があります。

■大きなクジラ用のモリ

■神聖なモリ綱を作る

■手紡ぎの綿糸から作られたモリ綱

◆4月29日　浜では、船の手入れをしたり、網や椰子の葉で作った帆の修理をしたり、海開けの日を前にして漁の準備に忙しそうでした。

　船にはクジラを仕留める大きなモリが備えられ、そのモリを繋ぐ綱を作っているところを見ることができました。女性達が手で紡いだ糸を束ねたものを、さらに3本縒り合わせて、男性達が体重を掛けて締め上げながら、モリ綱が作られます。 ナイロンロープも普及してはいるのですが、このモリ綱は神聖なもので欠かせないそうです。 伝統的なクジラ漁に手紡ぎの糸が欠かせない事を知り、手紡ぎの糸で織られたイカットとの繋がりが感じられ、とても印象的でした。

■綿花を摘み、種を取り除き、ほぐした繊維に紡錘コマで縒りを掛けて糸に紡ぎます。糸作りは手間と根気の作業です

■4/30夕方　浜でのミサの様子

■ろうそくを灯して小舟に乗せ海に流します

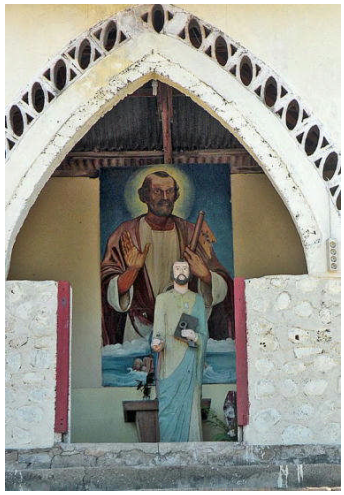
■砂浜にも無数のろうそくが立てられ…

◆4月30　海開けの日の前日は夕方から浜の中央にある礼拝堂の前に村中の人が集まり、ミサが行われました。夜には海で死んだ漁師を追悼し、その魂を鎮める為にろうそくを灯してお祈りをします。
家族を亡くした人は小さな手作りの小舟にろうそくを灯して海に流したり、村中の人々が手に手にろうそくを持ち、砂浜にろうそくを立てて、お祈りをしました。日本の灯籠流しと一緒ですね。でも、川に流した場合はどんどん流されて行ってしまいますが、海の場合は波間に行きつ戻りつして揺らぐろうそくの炎が、まるで亡くなった人の魂が宿って何かを語っているかのように見えて、切なくなりました。とても感動的な儀式でした。

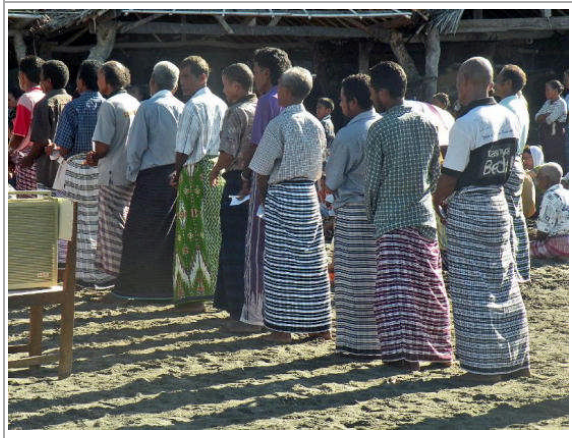
■海開けの日の前夜

◆5/1　ラマレラは「太陽の地」を意味するそうです。毎年5月1日には、浜の中央にある礼拝堂の前でミサが行われ、待望のクジラ漁がこの日より始まります。ラマレラの人達は皆敬虔なカトリック教徒、礼拝堂にはラマレラ漁師の守護神「聖ペテロ」が祀られていて、人々は今期の豊漁、安全無事を願い、クジラの魂を鎮める祈りを捧げます。

■5/1の朝のミサ



■ラマレラ漁師の守護神「聖ペテロ」を祀る礼拝堂
聖ペテロ像はいつも海を見守っているようですね



■礼拝堂の前に勢揃いした漁師達

■海にも祈りを捧げます

■いよいよ出航！

■この日は1艘だけが海に出ることを許され、クジラを探しにいきます

■手で櫂を漕ぎ、帆を張り風を受けて、一艘のプレダンは波間に消えて行きました

この海明けの儀式が終わると翌日からは毎日出漁します。通常ですと私達も一緒に船に乗せてもらい、海に出ることもできるそうですが、今年はたまたま翌日が日曜日でした。ミサのある日曜日は漁も休まなければなりません。月曜日まで待ち、船に乗ってみたいとは思ったのですが、残念ながら日程の都合もあり、ラマレラにクジラがやって来ることを願いながら、私達は翌朝村を出発することにしました。

その後、5/22に2頭の大きなクジラが捕れたというニュースがありました。村人達は大喜びだったと聞き、私達も嬉しくなりました。

■いずれも、経糸・緯糸ともに手紡ぎ、天然染料です

◆ラマレラ村のイカット

今回はクジラ漁開始とその前夜のミサに遭遇できればと出掛けた旅でしたので、ミサに立ち会えただけでも充分満足でしたが、素晴らしいイカットにも出会えて感激しました。

インドネシアの村々を訪ねてみても、最近は手紡ぎのイカットは本当に少なく、なかなか見られなくなりましたが、この村ではまだ健在でした。

■モティーフはもちろんクジラと舟と小さなマンタと…

■こちらは「奴さん」のようですがマンタです
向かって左側に目が、右側には尾があります

いろいろな島を巡りながら、今迄に2回ルンバタ島を訪れましたが、ラマレラ迄は行かれずじまいでした。何故、もっと早く訪れなかったのだろうと、今さらながらに思いました。ルンバタ島からの帰路、船が欠航だったり、フローレスからバリへの飛行機が予定通り飛ばなかったりして、ギリギリの帰国になりましたが、初めて訪れたラマレラ村はとても印象深く、有意義な旅でした。

今回偶然にも、ラマレラ村の暮らしや捕鯨に関する本を出版されている小島曠太郎さんと同じ宿になり、お世話になりました。興味のある方に今回参考にさせていただいた以下の図書をお勧めします。

小島曠太郎・江上幹幸『クジラと少年の海』理論社

小島曠太郎・えがみともこ『クジラがとれた日』『クジラがくれた力』『クジラにいどむ船』ポプラ社